



会長 **中村 英隆**

理事長 **岡部 憲昭**

皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は遠賀信用金庫に対し、格別のご愛顧、お引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

本年も、遠賀信用金庫についてのご理解を一層深めていただくために、ディスクロージャー誌『ONSHIN REPORT 2013』を作成いたしました。ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成24年度の我が国の経済は、夏場以降、欧州の財政・金融危機の深刻化、中国経済の減速等から停滞傾向を強め、円高の進行や電力供給の制約等から景気の一段の後退が懸念されました。しかしながら、年末の政権交代以降は、大胆な金融施策、積極的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の3本の矢からなるアベノミクスに対する期待感から、円高の修正と株価の上昇が進み、企業マインドや消費者心理に明るい兆しがみられるようになってきました。今後、アベノミクス効果の波及等により、地域の中小企業にも景気回復の動きが広がってくることを期待されます。

こうした中、遠賀信用金庫は、「お客様の役に立つ金融機関、お客様から選ばれる金融機関、地域のベスト金融機関」という経営の基本方針の下、地域に貢献し、地域とともに歩む町内会的金融機関として、様々な取り組みをしてまいりました。

市民ギャラリーやお客様専用トイレ等を併設した「地域共生店舗」は、平成15年の岡垣支店を皮切りに順次整備してまいりましたが、平成24年10月には、その集大成とも言える10店舗目の「地域共生店舗」として、遠賀支店がリニューアルオープンしました。

平成24年度の決算につきましては、厳しい経済環境下ではございましたが、当期利益は、前年度を上回る486百万円を確保することができました。地元への貢献度ともいべき預貸率(預金に対する貸出金の比率)は62.60%で、引き続き業界平均を大きく上回りました。金融機関の健全性を示す自己資本比率は14.62%と、国が定める基準(4%)の3倍を超えております。以上を踏まえまして、会員の皆様への出資配当は、本年度も業界の最高水準である8%を維持することができました。

昨年10月、中村が会長に、岡部が理事長に就任したことに加えまして、本年6月の総代会で一部の理事が交代し、新しい執行体制がスタートしました。遠賀信用金庫は協同組織金融機関として、これまで以上に地域に貢献し、皆様のご期待に応えるべく、役職員一同、渾身の努力をする所存であります。

本年6月には、遠賀信用金庫で公的年金をお受取りいただいているお客様を会員とする「おんしんおむすび会」を発足させました。会員の皆様には、たくさんの素敵な特典をご用意させていただくとともに、会の活動を通しまして、地域の皆様の「結び」を深めるお手伝いをしていきたいと考えております。

今後とも、遠賀信用金庫に対し、格別のご厚情を賜りますようお願い申し上げ、皆様のご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げて、ご挨拶といたします。

平成25年7月